

令和5年度 東京都立羽村高等学校 学校経営報告

令和6年3月31日

校長 神谷 画歩

1 学習指導

ア 今年度目標

観点別評価の「主体的に学びに向かう態度」を重視する

イ 目標達成への具体的方策・取組目標

- (1) テスト前の放課後補習・土曜講習、長期休業中の補習、講習等を計画的に実施する
- (2) 生徒の実態を踏まえた授業内容、ユニバーサルデザイン、グループワークを推進する
- (3) 教科主任会議の定期的開催により、3観点別評価に対応した授業改善を推進する
- (4) 新学習指導要領に対応した観点別評価を行い、指導と評価を一体化した学習指導を行う
- (5) 生徒の学力向上に資するICT機器によるオンライン学習を実施し、同時に生徒の主体性を育成する
- (6) 講師を招いた校内研修を実施する

ウ 今年度実績

達成度 B

- ・ 教科主任会議の定期的開催により、3観点別評価に対応した授業改善を推進した
- ・ 全教員（講師も含めて）がICTを活用した授業を実施
- ・ 特別支援教育に関する校内研修会を年3回（6月・10月）
- ・ 生徒欠席時数において、生徒が抱える課題の幅を広げ、YSWの面談を経て、進級卒業判定に配慮した。
- ・ 考査前勉強会：延べ908名参加

エ 成果と課題

- 一部教科によるAI教材を活用した「学び直し」による基礎・基本の定着
- 退学者数 今年度25名（昨年30名）

2 進路指導

ア 今年度目標

進路決定率87.7%（3月25日（月）現在） 進路行事の推進 資格取得生徒の増加

イ 目標達成への具体的方策・取組目標

- (1) 学校外の学修（就業体験、上級学校での学修及び資格取得）の推進
- (2) 病院、市役所、動物園、保育園等連携先での就業体験、大学や専門学校等連携先での学習、各種検定取得の促進
- (3) 上級学校訪問、チャレンジプログラム等の活用
- (4) 自立支援プログラムとの連携による進路指導の充実
- (5) 適切な進路情報の提供
- (6) NPO法人やハローワーク等と連携したキャリア教育の推進
- (7) 公務員試験対策講座や看護医療系学校受験対策講座の実施

ウ 今年度実績

達成度 C

- ・ 自立支援プログラムとの連携による進路指導の面接 延べ139名
- ・ 3年間を見通した進路指導計画を立案
- ・ 学校外の学修（就業体験21名、上級学校の学習4名、合計25名（昨年度10名）
- ・ NPO法人やハローワーク等と連携した進路講演会の実施 各学年実施 9回
- ・ 公務員1名、看護学校等3名が合格
- ・ 人材派遣会社と連携し、官民合同16社の企業交流会を実施 1学年全員

エ 成果と課題

- 令和6年度で実施するインターンシップの受け入れ先の開拓 (130社 250名分)
- NPO法人等との連携による早期の進路決定支援面談の実施。
- スキルアップ推進校としての各種検定試験の推進

3 生活指導・安全指導・特別活動**ア 今年度目標**

挨拶、身だしなみ、遅刻指導の徹底 ルール・マナーの順守 部活動の活性化

イ 目標達成への具体的方策・取組目標**A 生活指導**

- (1) 授業規律 時間を守る、不要物持ち込みや授業妨害厳禁
- (2) いじめを許さない学校、SNSでの誹謗・中傷、不適切な投稿等の監視及び指導
- (3) 「人間と社会」やホームルーム活動等を通じて、お互いの立場を尊重しつつ、違いも理解し、適切に対応できるスキルを養う教育を実践する
- (4) 身だしなみを整える (化粧・装身具装着及び頭髪の色や形の加工はしない)
- (5) 社会の一員としての自覚 (あいさつ、礼儀、けじめ、法律や社会のルール、マナー等を守る)
- (6) Face to Face のコミュニケーションの励行 (携帯・スマホへの過度な依存の排除)
- (7) 学校生活を中心とした生活リズムを確立

B 安全指導

- (1) 通学時自転車通学指導を学期1回、3日間連続で実施する。
- (2) 生活安全については、SNSの安全で差別偏見のない活用を授業等に取り入れ学ばせる。
- (3) 防災教育については、地震、火災、水害での災害防止に備える指導を行う。

C 特別活動

- (1) 生徒中心の学校行事運営を行うために、生徒のリーダー育成に努め、リーダー研修会を実施する。
- (2) 生徒に居場所を確保するため、魅力ある学校を作るための方策として、生徒を活用した図書館改革を推進する
- (3) 全教職員は、校務分掌の一環として、担当する特別活動の顧問として生徒の指導支援にあたる

ウ 今年度実績**達成度 B****A 生活指導**

- ・ 全教員でホームルーム、全授業開始時に身だしなみ等の指導を継続して行った。

B 安全指導

- ・ 地域からの情報を活用し、主に自転車通学の生徒の登下校における通学マナーの指導を行った。また、敷地内乗車禁止の指導を徹底して行った。

C 防災教育

- ・ 地域の関係諸機関 (消防署、自衛隊、市役所等) と連携して総合防災訓練を実施した。

エ 成果と課題

- 全授業開始時に身だしなみ等の指導を継続して行った結果、授業規律が改善された。
- 校外における身だしなみや交通マナー指導までの指導範囲を広げることができなかった。

4 体力向上、健康指導**ア 今年度目標**

統一体力テストの数値向上 感染症対策等の徹底

イ 目標達成への具体的方策・取組目標

- (1) 全校体制で東京都統一テストを実施するとともに、生徒の体力と生活習慣の向上に取り組む
- (2) 保健・体育の授業、部活動等において、健康づくり、体力の向上、放課後の活用、外部機関との連携、地域との連携等を推進する

- (3) 感染対策の徹底を図るため、生徒会、委員会、部活動等を活用した広報での周知、講演会・講習会等を企画して知識・理解を深め、学校全体で感染対策の意識向上を図る

ウ 今年度実績

達成度 B

- ・ 体力向上の取り組みとして、授業ごとに筋トレ・柔軟運動などを取り入れた。体力テストの値は3学年とも東京都の平均値を下回っており継続して体力向上に努めていく。
- ・ がん教育について知識・理解を深め健康教育に関する意識調査を行った。
- ・ 2学年保健で研究発表の授業を実施し、思考力・表現力の向上に努め、3観点での総合的な評価につなげた。

エ 成果と課題

- 薬物乱用防止に関する講演会を実施し、薬害の理解につながる働きかけを行った。
- 生徒自身が主体的に心と体の健康について考える機会を設ける

5 人権教育・個に応じた指導、自立支援チームの有効活用

ア 今年度目標

相互尊重精神の涵養及び自立支援ユニバーサルデザインとインクルーシブ教育の推進

イ 目標達成への具体的方策・取組目標

- (1) 自立支援担当教員、特別支援教育コーディネーター、養護教諭、各学年及び分掌担当の教員、Y A、Y S Wで構成される生徒自立支援(S J S)委員の定例会議を時間割内に位置付け、生徒の課題や情報を共有し、各生徒の支援計画を立案、実施する。
- (2) 1、2学年の当初に「学習・心理テスト」を実施し、「全体的な傾向」、「学習面、生活面、心理面の傾向」、「集団として留意する必要がある傾向」、「個別に注視すべき生徒」等の情報について校内で共有し、生徒指導に役立てる。
- (3) 精神面で不安を抱える生徒の支援・指導のための研修会を開催する。
- (4) SNS使用リテラシー、体罰の防止・根絶を年2回、いじめ防止の取組を年3回調査し、早期発見、早期防止を図る。

ウ 今年度実績

達成度 A

- ・ S J S委員会を年29回(週1回の定例会)実施し、生徒の情報共有を行った
- ・ 1年生のTKテストの分析会を実施し、生徒及びクラスの特性等について理解を深めた
- ・ 児童相談所や、子ども家庭支援センター等関係諸機関と連携してケース会議を開催し、生徒の支援に役立てた。
- ・ Y S Wを利用した生徒170名、431回(昨年度86名 255回)
- ・ S Cを利用した生徒63人 延べ106回(昨年度90回)
- ・ 生徒のアンガーマネジメントに関する講習会等を実施し、自立支援に関する意識向上を行った。
- ・ 体罰調査を年1回、いじめアンケートを年3回(1学年は4回)実施した
- ・ 年間転退学者数 51名(昨年度68名) 退学者数25名(昨年度36名)

エ 成果と課題

- 欠時数オーバーの生徒に対するY S Wの面談により、生徒課題に応じた柔軟な対応ができた。
- ケースによっては外部支援機関との連携による具体的な対応策を検討し、実践することが必要

6 地域連携・広報

ア 今年度目標

地域との相互相恵関係の構築及び本校志望倍率の向上

イ 目標達成への具体的方策・取組目標

- (1) 学校見学会・説明会年8回、管理職による中学校訪問(近隣地区、青梅線・五日市線全域の中学校をすべて訪問)塾訪問、自立支援の各種団体訪問等、本校の良さをアピールする。

- (2) ホームページの更新を定期的に行い、学校の最新情報を広く提供する。
- (3) 全校生徒、教職員、PTAによる地域との連携で、羽村まつり等へ参加。

ウ 今年度実績**達成度 B**

- ・ 全教員による中学校訪問を139校実施。
- ・ ホームページを314回(目標は400回)更新し、最新情報(本校の取組・生徒の良さ)を広報。
- ・ 学校見学会562組(昨年286組)、学校説明会466組(昨年232組)が参加。

エ 成果と課題

- 生徒の有志による学校紹介を実施し、参加者からのアンケートで好評価を得た。
- 生徒、教職員、保護者、同窓会、地域等が一体となって本校の良さを中学校、塾等に広報していくこと

7 組織運営(企画調整会議・委員会・プロジェクトチーム)の整備**ア 今年度目標**

校内組織の活性化

イ 目標達成への具体的方策・取組目標

- (1) 会議時間は1時間に限定し、協議内容、進行方法等の改善を図る。
- (2) 副担任は授業のみでなく、担任団との連携を前提とした配置とする
- (3) 生活指導・教育課程・就労支援のプロジェクトチームにより「ハムコウの人づくり」の具体化を図る

ウ 今年度実績**達成度 A**

- ・ 各分掌に副主任を充て、組織の活性化及び運営の向上につなげた。
- ・ アドバイザーを学校運営連絡協議会委員に依頼し、同協議会において、課題解決に向けた的確な指導・支援を受けた。

エ 成果と課題

- PT提案により、令和7年度教育課程など本校の課題解決策を具体化することができた。
- 分掌間連携でしか解決できない課題については迅速な連携を図ること。

8 働き方改革**ア 今年度目標**

校務及び会議の効率化、教職員の負担軽減及びメンタルヘルス

イ 目標達成への具体的方策・取組目標

- (1) 校務の一極集中を避けるため、校務は原則複数対応とし、相互不干渉の姿勢は取らない。
- (2) 羽村高校を良くする目標の許、話し合い、協力し合い、助け合い、校務に邁進する。

ウ 今年度実績**達成度 B**

- ・ 職員会議のペーパーレス化を図った。
- ・ 産業医と連携し、在勤時間が超過している教員と面接

エ 成果と課題

- 勤務時間軽減のため保護者への連絡を原則オンラインで行うことを周知した。
- さらに教職員の負担を軽減し、メンタルヘルスを維持する職場環境を構築していくこと

次年度以降の課題と対応策

- (1) 外部支援者と連携し、転退学者の減少と進路決定率の向上を図る
- (2) インターンシップの全教職員による組織的な実施
- (3) 部活動の活性化(加入率、参加率、実績等の向上を図る)
- (4) 試験前、試験後の補習・補講及び主要3教科による学び直し授業の拡充、土曜及び長期休業日の講習等の実施
- (5) SJS委員会の生徒対応策として、課題のある生徒の個別支援計画を活用した生徒支援を推進